

平成24年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

平成24年4月1日～平成25年3月31日

平成25年 8月

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

平成24年度 加西市教育委員会 重点施策

大項目	重点目標	実践目標	担当課
新しい時代を切り拓くこころ豊かな人づくり	1 0歳から15歳までの一貫した教育を進めます	1 遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育を進めます	こども未来課
		2 発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を進めます	総合教育センター こども未来課
		3 知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図ります	学校教育課
		4 自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」を育てます	学校教育課
		5 運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」を育みます	学校教育課 教育総務課
		6 家庭・地域・学校園の連携のもと、特色ある学校園づくりを進めます	学校教育課 こども未来課
		7 教職員としての資質と実践的指導力の向上に努めます	総合教育センター
	2 「市民が主役」の生涯学習社会づくりを進めます	1 市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいを進めます	文化スポーツ課 図書館
		2 市民だれもが「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ活動に親しめる環境整備を進めます	文化スポーツ課
		3 豊かな心を育む文化・芸術活動を推進し、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります	文化スポーツ課
		4 豊かな歴史文化遺産の保存と活用を市民協働で継続的に進めます	文化スポーツ課
	3 みんなで子どもの未来を応援します	1 心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます	総合教育センター
		2 安全・安心な教育環境を整えます	教育総務課 学校教育課

重点目標	1	0歳から15歳までの一貫した教育を進めます
------	---	-----------------------

実践目標	1	遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育を進めます			
<p>●取組1 「発達の過程に即した体験等を通して人とのかかわる力を育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育として「加西市幼児教育プログラム」方針に基づいた実践を通じ、人とのかかわりや思考・表現力を育成 ・5歳児教育にSTARTプログラムを取入れ、個々の自律力を培い、さらに集団づくりを支援 ・保育者の専門性など資質向上を図るため、研修機会の設定や研修内容等を充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育プログラムに取り組み2年目を迎え、「音楽的知性(伝統部会)」「絵画・言語的知性(絵本部会)」「空間・論理数学的知性(環境部会)」「身体運動的知性(幼児運動部会)」部会毎に担当園を決め、年間指導計画に基づく活動を行った。特に伝統部会では、地域から指導者を招聘し、祭り太鼓の取組を行うなど地域と幼児との関わりを深めた。 ・各園では、幼児教育にSTARTプログラムを継続して取り組み、新たに姿勢の学習を取り入れるなど集中力向上に努めた。 ・市教育委員会指定研究発表会を北条東幼稚園で実施し、教諭・保育士職員60名が参加した。また、幼児教育の充実に係る職員研究会として「幼稚園運営」「STARTプログラム」「カリキュラム」「園評価」の4部会を新たに立ち上げ、課題や方向性を中間報告として表し、職員間の情報共有化と議論の基礎資料に供した。なお、上記の研修や研究会ならびにその他職員研修を実施し、職員の資質向上等に努めた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期は人間形成の基礎を培う時期であり、園では関連性や連続性をもち偏りのない多様な体験活動等を用意し教育の充実に努めていますが、地域や家庭で欠けているものを分析し、園での活動で補うだけではなく、地域の積極的な関わりや家庭が自覚し、しっかりと子育てする支援づくりが必要である。 ・幼児個々の特性を把握し、複数年に亘るSTARTプログラム計画づくりとその検証等はPDCAサイクル機能を活かした取組が求められている。また、その進捗状況等は、保育者や家庭で情報共有化を進める一方、効果については小学校の協力を得ながら長期的視野で検証する必要がある。 ・保育者の視点強化に努め、一方で園内活動として行われたSTARTプログラムや姿勢学習等による自律や集中する取組を家庭でも取組可能な活動として各園で周知し、連携した取組が求められる。 ・私立園の独自性を尊重しつつ、実践普及を目的に研修や取組を引き続き呼びかける。 		担当課			
		達成度			
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table>			
		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table>			
<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table>					
<p>●取組2 「園児個々の実態や特性に応じたきめ細やかな支援策の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス指導計画を基にした発達障がい等の特別支援児個々の指導計画の立案と支援ファイルの作成 ・園児個々の発達や特性に即した特別支援体制の確立 ・保護者や療育部門等との情報交換と支援相談体制の確立 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児個々の詳しい療育内容や保育士の関わり方等の支援状況が判る支援ファイルを作成し、特別支援教育コーディネーターネットワーク会議を経て小学校へ引き継ぎを行った。 ・平成25年度入園を予定する発達障がい児支援について公立保育所・幼稚園・幼稚園の就園指導会議を療育・健康部門関係者を交え開催した。対象園児44名個々の状況について調査し協議を行った結果、5歳児14名、4歳児6名、3歳児8名について加配保育士18名の配置を決定した。 		担当課			
		こども未来課			

<p>・市単独補助事業「私立保育所障がい児保育事業」として私立園3園から申請のあった園児4名を支援する加配職員の配置に対し助成を行った。</p> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育部門等との連携を深め、園児個々の発達状況と経過を客観性をもって把握し、情報共有化と保育者の技術力向上に努める必要がある。 ・相談窓口の柔軟な対応並びに連携を通じた保護者との信頼関係を基にする「つなぐ」支援体制の強化が引き続き求められている。 ・特別支援児への加配職員は、現行は保育士、幼稚園教諭資格を有する臨時職員で対応しているが、発達障がい児等への関わりに対して福祉部門等の有資格者を配することができないか。また、保育・教育・福祉各専門分野職員が連携し交流を進めることで特別支援児への関わり方や保護者との相談窓口の強化を図れないか検討が必要である。 ・特別支援担当職員をはじめ保育職員の多くを臨時職員でもって対応している。しかし、当初計画の職員配置では、年度途中の入園を希望する保護者の保育ニーズに応じた対応並びに低年齢児の保育増加傾向から保育ニーズに即応する人的体制が難しい状況である。緊急措置として臨時保育職員の募集をハローワーク、広報、人材募集広告等で随時募集しているが人材確保は困難であり、計画的な職員採用と資質向上は喫緊の課題である。 	こども未来課		
	達成度		

実践目標	2	発達や学びの連続性を保つ幼・小・中学校の連携教育を進めます	
<p>●取組1 「幼小中学校及び関係機関との連携の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援ファイルの電子化とその実用化 ・児童療育室や市民病院ドクター等とのネットワークを活かし、ケース会議や連絡会を開催 ・発達支援プログラムの提供(5つの小集団トレーニングを各10～18回、保護者学習会30回) ・小中連携教育推進委員会を開催し、研修会及び情報交換等を開催(年間2回) ・各学校生徒指導担当者による連絡会の開催(年間延べ10回) <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者会や研修会等により、電子ファイルの実用化を推進することができた。 ・子育て支援や療育事業での相互連携により、支援体制の充実が図れた。 ・特別な支援を要する児童生徒・保護者への支援と関係校との連携が図れた。 ・各学校における小中連携教育への関心が高まり、テーマを持った取組や教科部会による調査など、新たな取組が見られた。 ・小中連携による「校則の確認」ができ、生徒指導における連携の推進ができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ファイルの実用化を推進し、家庭と学校の緊密な連携によって、より充実した支援体制の構築ができるように努める必要がある。 ・小中連携教育の推進体制を確立するために、部会を充実していく必要がある。 ・教職員の情報連携から、子どもたちの行動連携につなぐ取組を検討することが大切である。 			担当課
			総合教育センター
			達成度
<p>●取組2 「家庭・地域との連携や幼保間並びに幼保と小学校の連携・交流の充実による小1プログラムの軽減」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放など就学前親子参加事業や公開保育を通じた各園での取組実施 ・公立保幼稚園児と小学校児童の交流や連携活動の充実 ・幼保職員と小学校教職員の交流及び合同研修を実施 ・幼保一体化による教育環境整備の促進 <p>●成果</p>			担当課
			こども未来課

<p>・未就園児親子を対象に全ての園で延べ49回の園庭開放を行い、育児相談や園児との交流等を通して子育て不安の払拭に努めた。また、音楽会や発表会など親子参加事業を全園で103回実施したほか幼稚園ウィークなど公開保育を計40回開催し、小1プロブレム軽減への取組を保護者や保育関係者で共有した。</p> <p>・幼保並びに幼小連携では、日々の遊びへの参加交流や遠足・運動会等の交流など共通した経験から一体感の醸成や異年齢交流による遊びを通じた学びを全園で74回実施した。</p> <p>・交流事業後の研修並びに引き継ぎによる幼小職員合同研修会を計17回実施し、意見交換を行った。</p> <p>・幼保施設の一体化では、加西中学校校区で田原保育園と九会保育園ならびに九会幼稚園の統廃合を進めた。公立九会幼稚園として平成25年度開園のため、隣接する九会幼稚園と九会保育園を一体的施設とした既存施設整備を図った。</p> <p>・北条中学校校区の就学前教育施設再編検討委員会を設置し、公立幼保施設の再配置を検討した。北条東幼稚園と北条南保育所を統合する幼保連携型施設「北条東」のほか、北条西保育所と北条幼稚園を統合する幼保連携型施設「北条」の2園へと統廃合する当該校区の教育環境整備方針の答申を受けた。「北条東」は、当初は民間移設を目指して公募を行ったが、公立幼保連携型の幼稚園として平成27年度開園を目指して整備を図ることになった。</p> <p>●課題</p> <p>・公開保育や親子参加事業のねらい等を職員共通の認識のもとに取組や活動を家庭へ還元することで保護者との共通理解を深め、また学校や家庭・地域との協力体制の構築が求められる。</p> <p>・幼児教育については、「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に基づき行っているが、新たに複数年の幼稚園教育の導入ならびに保育と幼稚園教育との円滑連携という観点から地域特性をも活かした共有性のある市幼児教育指導計画策定が求められ、ソフト面からの充実を図る必要がある。</p> <p>・保幼小教職員間相互の共通理解と連携した指導内容の検討を深める必要がある。</p> <p>・保幼の施設については、老朽化が進んでいるので、今後施設整備が課題である。</p> <p>・幼保連携型施設整備では、地域、保護者の理解と協力を得て整備促進に着手したが、実現に向けて国・県関係機関との調整や財政協議など早急な調整が必須である。また、教育環境整備にあたっては、ハード整備だけでなく幼保連携内容の検討や行事見直し等のソフト面からの充実、調整が課題である。</p>	<p>こども未来課</p> <table border="1" data-bbox="1324 1198 1508 1422"> <tr> <th colspan="3">達成度</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	達成度														
達成度																

実践目標	3	知識基盤社会に対応する「確かな学力」の定着を図ります
<p>●取組1 「基礎基本の定着・言語活動の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中特別支援学校における教育課程編成における前年度からの指導助言の充実と承認 ・市教委指定学習指導研究発表校小2校・中1校・特別支援学校中間発表の実施及び指導助言 ・朝(業前)学習タイム週4回設定と特色ある推進(読書活動・言語活動) ・学校図書の実用と活用および理数備品の充実 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学力における実態を分析・考察し、国際社会に通用する知識基盤社会の構築に向けた教育課程の編成ができた。各校地域とともに歩む特色ある学校づくりの運営における編成の助言もできた。 ・算数科小学校1校、国語科小学校1校、道徳教育中学校1校、特別支援学校の指導助言を適切に行った。さらに、要望があった学校には授業参観・研究協議を踏まえ、国・県・市の方針を適切に指導助言した。 		<p>担当課</p> <p>学校教育課</p>

<p>・すべての学校において週4回の朝の学習タイムが設定され、各校特色のある15分間の学習を展開(読書活動・言語活動の充実)している。</p> <p>・文科省より読書活動推進校の指定を小学校1校に継続指定し、図書館の整備充実を図り、魅力ある読書活動の推進を行った。</p> <p>・備品購入配当による理科備品整備率は、小中で31.0%、算数備品整備率は、25.0%で昨年度より高い整備率を確保することができた。</p> <p>●課題</p> <p>・学校は教育実践の取組について、これまで以上に積極的に学校便り・保健便り・学級通信・ホームページ・各種会合で報告を行い、オープンスクールの案内も参加対象者を拡大するよう努力した。学校ホームページの活用による情報も公開しているが、まだまだすべての方々に届いているとは言えない状況がある。</p> <p>・学校図書館活用を大いに図りながら日常生活に読書習慣を定着させるための教育活動を推進・展開しているのだが、図書(新刊本等)の整備率がすべての学校において低い。さらに予算に反映させることができるよう引き続き努力する必要がある。</p>	学校教育課
	達成度
<p>●取組2 「個に応じたきめ細かな指導の推進」</p> <p>・新学習指導システム教員の活用による少人数指導・同室複数指導の推進</p> <p>・兵庫型教科担任制の質的な推進</p> <p>・スクールアシスタント、ヤングアドバイザーの配置による個に応じたよりきめ細かな指導の充実</p> <p>●成果</p> <p>・県教委の配置基準による非常勤配置実施計画の申請を各学校から受け、実情を踏まえ、積極的に要望した結果、児童生徒にとって有益な人員配置を行うことができ、多様な指導を行うことができた。</p> <p>・小学校11校中11校すべての学校で兵庫型教科担任制を実施した。ただ、1校については5・6年生とも単学級であり、県からの非常勤配置はなかった。</p> <p>・個に応じたよりきめ細かな指導の充実を図るための市単独予算措置のスクールアシスタント事業小学校8,505時間、中学校2,765時間の配備、ヤングアドバイザー事業小学校3,885時間、中学校2,310時間の配備を行い、各校きめ細かな指導を充実させ、基礎基本の学力定着を図った。</p> <p>●課題</p> <p>・県推進事業の「兵庫型教科担任制」は、中一ギャップを解消できる重要な取組である。ただ、現場としては、時間割が固定化し天候の関係で調整が必要な行事等に影響があり、非常勤配置校については、打ち合わせ時間の設定に苦勞した。また、高学年担任希望者もやや減少傾向にある。</p> <p>・学校教育課で講師登録を随時行っているが、非常勤およびアルバイト人員を見つけることが喫緊の課題であり、依頼時期も限定されており困難をきたしている現状である。他市と密な連携を視野に、引き続き努力を要する。</p>	担当課
達成度	

実践目標	4	自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」を育てます
<p>●取組1 「道徳教育の推進」</p> <p>・道徳の時間を要にした教育活動全体に位置づけた道徳教育の推進</p> <p>・兵庫版道徳教育副読本等を活用した道徳の時間の充実及び家庭での活用</p> <p>・家庭や地域と連携した道徳教育の推進</p> <p>●成果</p>	担当課	

・新学習指導要領の掲げる重点課題の一つである「道徳教育」を充実させるため、道徳教育推進担当教師を中心として、各校の道徳教育推進全体計画及び年間指導計画の見直しを行い、効果的な教育活動を展開した。

・兵庫版道徳教育副読本が道徳の時間や朝の学習タイム、家庭などで活用することによって、先人の生き方や自然、伝統や文化等に触れ、道徳的価値やそれに基づいた人間としての在り方・生き方について自覚を深め、豊かな心の基盤となる道徳性を養うことができた。

・文科省委託事業・兵庫版道徳教育副読本活用拠点校の指定を受けた下里小に続き、市教委指定道徳教育発表会を善防中学校で開催し、市内外の教職員に効果的な小中道徳教育の在り方のモデルを中学校区において示すことができた。

・兵庫版道徳教育副読本を家庭に持ち帰り親子で読んだり、オープンスクールにおいて道徳の時間を公開したりすることによって、学校と保護者が連携し、日常生活に根ざした道徳性を養う取組を行うことができた。また、地域住民との交流や連携によって、規範意識や社会生活上のルールを身につけることができるような場を設け、道徳性を養うことに効果を上げた。

●課題

・道徳の時間等で学んだ道徳的心情、判断力や実践しようとする力を、実生活の場で行動に表すことができるように、より体験的な活動の中で、道徳性の育成を進める必要がある。そのために、環境体験学習(小学3年)、自然学校(小学5年)、トライやるウィーク(中学2年)などの兵庫型「体験教育」活動のさらなる充実を図ることが求められる。

・地域体験活動においては、児童生徒がやや消極的な行動を見せる場面がある。ふるさと加西に対する認識を深め、児童生徒自ら、地域社会の一員として積極的、実践的、意欲的な行動ができるような授業プランを構想し指導していく必要がある。

・市教育委員会が各校に2年間の研究指定をし、毎年小中特学校3・4校の割合で学習指導研究発表会を開催している。道徳教育に関しては、平成22年度・北条小学校、平成23年度・下里小学校(道徳教育推進拠点校事業と兼ねて開催)、平成24年度・善防中が研究を行ってきた。平成25年度予定をしている北条中学校も含め、年間1回は道徳教育を研究テーマとした研究発表会を開催し、加西市における道徳教育の充実を図っていく必要がある。

学校教育課

達成度

実践目標	5	運動や食育、健康教育を通じて「健やかな体」を育みます	
●取組1 「体力の向上・健康教育、食育の推進・充実」		<ul style="list-style-type: none"> ・各校における体力測定および体力プログラムの実施 ・外部講師の招聘等による健康教育(喫煙・薬物等の防止教育)の推進 ・地域や外部団体との連携による食育の推進 	担当課
●成果			学校教育課
<p>・市内全小・中学校において5月に体力測定を行い、各校児童生徒の体力の実態を調査した。学校教育の中で計画的・継続的な体力づくりに取り組み、特に、兵庫県教育委員会指定「体力・運動能力向上推進校」に指定された北条東小学校・九会小学校・泉中学校においては、その取組によって、各校、長座体前屈、ハンドボール投げ、上体起こしの体力向上を果たすことができた。</p> <p>・保健(小学校)や保健体育(中学校)の時間等において、加東健康福祉事務所や学校薬剤師会などの外部講師を招聘するなどして、喫煙、飲酒、薬物乱用がもたらす体への悪影響について学び、健康への関心を深めた。また、感染症予防学習もモジュールで随時実施した。</p> <p>・小学校3年生の環境体験学習において、地域人材や外部講師(農業改善センターなど)を活用した農業体験を市内7校の小学校が取り組んだ。栽培をした野菜や米を利用した調理もし、保護者や地域住民と食文化への関心を深める学習を行い、食育を通じた健康な体を育もうとする心情も養うことができた。</p>			

<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の体力の減退は、全国的にも注目され、危惧されている課題である。加西市においても柔軟性などに課題がある学校が多い。学校づくり応援事業を活用した富田小学校のヨガ教室の開催のように、各校における児童生徒の実態から見える課題を重点課題と位置づけ、それらを解決するような具体的な取組が求められる。 ・「こころとからだ」の健康についての専門的な知識を有した人材の確保や、保護者や地域住民も参加できる学習の場(例えば、オープンスクールや学校参観日など)の設定と家庭教育の促進充実を啓発する必要がある。 ・食育の推進に向けた、平成24年10月に策定された加西市食育推進計画も踏まえ、児童生徒の実態を鑑みながら体験的な学習内容を設定していくことが必要である。 	<table border="1"> <tr><td colspan="3">達成度</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	達成度																				
達成度																						
<p>●取組2 「学校給食事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の完全給食実施に向けた、新学校給食センターの建設事業の推進 ・地産地消を進めながら、安全安心な給食調理の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度に新学校給食センターの実施設計を完了。平成24年度3月補正予算において、建設工事予算を前倒しで確保し、平成25年度に繰越を行い工事を実施する。平成25年12月に完成し、平成26年1月より給食を実施する計画である。 ・地元農協と協力し、加西産ヒノヒカリを100%の割合で学校給食に使用している。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年1月より新学校給食センターで、3中学校、4小学校、1特別支援学校の給食調理を行う。これと同時に、単独調理場の集約を行うが、移行期間が12月中旬より1月上旬と短期であるため、既設調理場からの備品移動及び新しい調理器具の使用訓練等を効率よく実施する必要がある。 ・米飯は、全て加西産の米を使用しているが、野菜については、一部の使用に留まっている。平成25年度からは、地元農協の協力を得て、地元野菜の使用量と種類を増やす計画である。 	<table border="1"> <tr><td colspan="3">担当課</td></tr> <tr><td colspan="3">教育総務課</td></tr> <tr><td colspan="3">達成度</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	担当課			教育総務課			達成度														
担当課																						
教育総務課																						
達成度																						

実践目標	6	家庭・地域・学校園の連携のもと、特色ある学校園づくりを進めます																					
<p>●取組1 「特色ある学校づくりの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加西学校づくり応援事業」を通し、市内全小中特別支援学校において、魅力のある特色ある学校づくりの推進を実施 ・各学校が、児童生徒や地域の実態・歴史等を十分に踏まえ、より魅力ある学校づくりをめざし、おいに地域人材を活用するなど創意工夫をこらした特色ある取組の展開 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の特色ある取組を通して、児童生徒の「ふるさと意識」・「生きる力」を育てることに繋がっている。 ・意図的に地域を巻き込む活動を計画し、より地域に信頼される学校づくり・開かれた学校づくりに繋がっている。 		<table border="1"> <tr><td colspan="3">担当課</td></tr> <tr><td colspan="3">学校教育課</td></tr> <tr><td colspan="3">達成度</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	担当課			学校教育課			達成度														
担当課																							
学校教育課																							
達成度																							
<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや、プレスリリースを通して、各校の取組を紹介しているが、まだまだ広報しきれていない。「かさい教育ネット」での特集も考えていきたい。 ・事業開始から3年目を迎えたため、より学校の独自性を表す必要がある。 		<table border="1"> <tr><td colspan="3">達成度</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	達成度																				
達成度																							

<p>●取組2 「家庭の教育力向上を図る取組の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の保護者を対象にした学習機会の提供 ・家庭教育にSTARTプログラムを導入 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園及び幼児園9園の各PTAに委託し、園児保護者を対象に家庭教育講座として学習の機会を提供することができた。講師は、教育系大学等の学識経験者や社会教育活動家等の外部講師を招聘し、講座数延べ10回、保護者数延べ390名が幼児の生きる力の基礎として人との関わりや学びの芽生え等について、また親子での遊びや運動そして茶道体験等を通して幼児教育の重要性を学習した。 ・北条幼稚園では、兵庫教育大学との連携のもと、保護者とともに家庭でできるSTARTプログラムに取り組むことで家庭と園が一体となり幼児教育を進める家庭教育の重要性への理解と充実を図った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園PTA、幼児園保護者会に各園18千円を委託し実施することから、各園での複数回の開催や継続性を持たせることは難しく、事業執行も各園長が行っている。今後は、幼保一体化を促進するうえでも家庭との連携や相互理解、家庭の教育力向上を継続して目指す必要がある。については、現行の家庭教育事業運営方法を見直し、効果的で継続性を持った柔軟な運営が求められる。 	担当課											
	こども未来課											
	達成度											
	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>■</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>					■						
	■											

実践目標	7	教職員としての資質と実践的指導力の向上に努めます										
<p>●取組1 「教職員の研修講座の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員にアンケート調査を実施し、教職員の希望を尊重して17コース、51講座を開催 ・実践に即した事例研修やワークショップ、現地研修など多彩な講座を開催 ・研修講座の内、希望者が受講する講座に加え、対象となる教職員が受講するコースを11講座開催 ・講座終了ごとに、参加者全員に講座内容を評価するアンケートを実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数が延べ614名となり、前年度比で2.19倍の受講があった。 ・講座数が増え研修の機会が多くなった。特に、教科研究に関する講座数の充実が図れた。 ・受講後のアンケート調査による評価が、5段階平均で4.46ポイントとなり、昨年度から0.24ポイントアップした。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催日と行事が重なり受講できない状況があったので、学校行事との調整が必要である。 ・事前調査では希望者が多かったが、実際には少なくて開講できない講座があった。 ・教職員の負担を考え、シリーズとして受講する回数を削減する。(原則3回を2回にする) 	担当課											
	総合教育センター											
	達成度											
	<table border="1"> <tr><td></td><td>■</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		■									
	■											

※ 達成度の表示については、横軸:難易度、縦軸:成果として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、成果は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、成果3

4			
3		■	
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中の各校が「教育の重点」を理解し、共通目標をもって日常の教育活動に取り組めた。 ・就学前教育については、「加西市幼児教育プログラム」方針にもとづく活動を着実に実践している。地域や家庭との継続した連携の取組から、幼児教育環境づくりへの理解や園事業に対する協力、さらに地域住民参加により地域との一体感が図られつつある。また、幼児教育にSTARTプログラムを取り入れ、新たに家庭と連携する活動が開始された。今後も保育者の資質向上への取組と併せて小1プロブレム軽減を目指した保幼小連携を教職員交流や情報交換等を通じて進めていく必要がある。 ・発達支援ファイルの電子化とその実用化や、特別な支援を要する児童生徒への支援体制の一環として、対象児童生徒への発達支援プログラムの提供など、学校と家庭、関係機関が連携した取組の充実が図られている。 ・幼保一体化における教育環境整備の推進については、地域・家庭の理解を得ることで一定の前進をみたし評価できるが、幼保一体化に伴う教育内容の検討等のソフト面の充実、保育者の確保や資質向上と併せて施設改修年次計画の策定ならびに財政面からの支援計画の策定等のハード面の整備も喫緊の課題である。 ・スクールアシスタント・ヤングアドバイザー事業市単独予算を拡充することにより、個に応じたよりきめ細かな指導を行うための体制を確保できた。 ・各校校内研修及び市指定学習指導研究中間発表会及び本発表に向けた適切な指導助言を行い、基礎学力の定着・言語活動を充実させるための取組と系統性に重点をおいた加西市の教育水準を保持・向上できた。 ・道徳の時間を要に児童生徒の実態に即した道徳教育がどの学校においても推進され、兵庫版道徳教育副読本の家庭での積極的な活用が図られるとともに各校道徳教育全体計画、各学年年間指導計画に基づいて道徳的価値、判断力、実践力を高める指導が行われた。 ・「加西学校づくり応援事業」を計画的に執行し、地域人材を活用した特色ある学校づくりを実施することができた。事業開始から3年目を迎え、今後より一層各学校の独自性を出していくことが期待される。 ・学校給食については、中学校給食の完全実施に向けて、着実に事業を進めている。5箇所の単独調理場を統合する時期に合わせ、食材の一括購入を市内統一で行う方針を決めた。中学校での完全給食実施に伴い、食育の推進について市全体に体制が整いつつある。 ・総合教育センターにおいて教職員の研修講座の充実が図られ、前年度比で約2倍の受講者数を得たことは、教職員の資質向上につながるものと考えられる。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>家庭・地域の連携を基本に様々な取り組みの結果が出ています。</p> <p>ただ、一部ですが、目標設定が不明瞭なところが見られます。目標設定は自己評価の基準となりますので、具体的に目標を設定する必要があります。</p> <p>また、給食関係は年々着実に効果を上げておられ、食材の一括購入を市内統一で計られました。その効果をどのような形で具体的に表すのか重要な点ですので、具体的な取り組みを期待します。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	2	「市民が主役」の生涯学習社会づくりを進めます
------	---	------------------------

実践目標	1	市民だれもが参加しやすい学習機会の提供と学びによる生きがいづくりを進めます															
<p>●取組1 「学習機会の提供と生きがいづくりの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の機能の充実と条件整備 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や社会課題に応じた公民館主催講座を52講座開催し、延べ402回、延べ8,938名（昨年度比120%）の利用があった。 ・公民館活動をよりタイムリーに情報発信できるブログを開設し、講座の案内や施設利用について情報提供を行った。 ・公民館で学ぶ登録グループの学習成果を地域へ社会還元する「公民館まちづくり出前講座」を開始した。今年度は3件のグループが活動し、地域貢献を行った。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公民館まちづくり出前講座」の普及啓発と登録グループの支援を図ることが必要である。 ・市民の多様なニーズに対応した様々な社会教育施設による学習機会の提供が必要である。 ・高齢化の進む中、参加者が利用しやすいよう施設整備は課題である。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															
<p>●取組2 「図書館の有効利用促進と学習拠点としての環境整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進するため、各種イベントを開催 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館まつりをはじめおはなし会など、子どもを対象としたイベントの開催であったが、幅広い年齢層から延べ約4,800名の参加者があり、図書館の有効利用につながった。 ・平成24年9月から持込みパソコンコーナーを設け、個人パソコンを使った学習等ができる環境を整え、更に平成25年3月から持込みパソコンコーナーでの無線LANを使用可能とし、図書館利用者の利便性を拡大した。（利用者76名）。 ・限られた予算の範囲内であるため一般図書の購入を控えることになったが、平成24年度はJISハンドブック、災害史事典、映画賞受賞作品事典といったレファレンス(参考)資料約100冊を収集し、図書館職員や利用者の調査に役立つ書籍の充実を図ることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の促進を図るための取組が、幼児から小学生向けのイベントの割合で高くなっており、利用者層を拡大するため対象年齢を広げた取組が必要である。 ・加西市内で唯一の図書館として、蔵書の充実が今後の課題である。 		<p>担当課</p> <p>図書館</p> <p>達成度</p> <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>															

実践目標	2	市民だれもが「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ活動に親しめる環境整備を進めます
<p>●取組1 「体力づくりや運動能力向上に向けた指導体制の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進につながる指導者の育成 ・市民を対象としたスポーツの普及 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会（「ショートテニス講習会」・「体罰についての講演会」・「普通救命講習会」）を3回開催した。 講習会の実施により、スポーツ指導者の資質向上及び人材の育成が図れた。 ・市民を対象とした「ショートテニス教室」を加西勤労者体育センターで全5回開催した。 		<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p>

<p>・市民を対象とした「加西市スポーツ意識調査結果報告会」を1回開催した。</p> <p>市民がニュースポーツに興味・関心を持ち、生涯スポーツの基礎活動を会得することにより、日常生活の習慣とできるように図った。</p> <p>・町親善ソフトボール大会及び体育大会参加者数 3,078名</p> <p>市民で構成された競技団体が大会等を実施することにより、スポーツに親しむ環境づくりができた。</p> <p>●課題</p> <p>・スポーツ実践者の増加に伴い、指導者の育成が急務となり、各種取組を行っているが、まだまだ指導者の養成については十分でない状況にある。今後も、市民がスポーツに親しむ環境づくりをめざし、指導者の育成を図ることが必要である。</p>	<p>文化スポーツ課</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1326 456 1513 629"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組2 「スポーツ団体の育成」</p> <p>・体育協会加盟団体及びスポーツ少年団が主催する大会の支援</p> <p>●成果</p> <p>・競技団体登録者数 191団体 2,978名</p> <p>現状の補助金の中で、各団体がスポーツ推進と自主運営が行えるよう支援することにより、最大の効果を発揮できた。</p> <p>●課題</p> <p>・体育協会加盟団体やスポーツ少年団は、単一種目団体の集合体であることから、各種目の競技の専門性が高く、スポーツに親しみのない人にとっては、他の団員との技術力の差が大きく継続的に活動することが難しく、今後はスポーツクラブ21などの諸団体との連携を強化させ、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりが必要である。</p>	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1326 994 1513 1167"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組3 「体育施設環境整備の促進」</p> <p>・学校体育施設の開放</p> <p>市内小学校11校、中学校4校、特別支援学校1校の運動場、体育館、武道館を市民に開放</p> <p>●成果</p> <p>・学校体育施設開放に係る利用者数 249,168名</p> <p>・加西勤労者体育センター等公共スポーツ施設の利用者数 81,104名</p> <p>適正な施設整備及び備品購入実施により、適切な施設の管理運営ができた。</p> <p>●課題</p> <p>・既存施設の補修・改修を計画的に進めることが必要である。</p>	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p> <p>達成度</p> <table border="1" data-bbox="1326 1442 1513 1621"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
<p>●取組4 「地域スポーツ活動の推進」</p> <p>・スポーツクラブ21・スポーツ少年団の育成と自主活動の促進及びスポーツ人口の底辺拡大の推進</p> <p>●成果</p> <p>・スポーツクラブ21 会員数1,455名</p> <p>スポーツクラブ21北播磨地区交流フェスティバル開催により、複数のニュースポーツを体験することができ、幅広い年齢層や市内のみならず北播磨地域の人たちとも交流ができた。</p> <p>・スポーツ少年団員数 606名</p> <p>現状の補助金の中で、各団体がスポーツ推進と自主運営が行えるよう支援することにより、最大の効果を発揮できた。</p> <p>・スポーツ意識調査の実施</p>	<p>担当課</p> <p>文化スポーツ課</p>												

<p>地域スポーツ活動の状況とその課題を明らかにすべく、市民対象にスポーツ意識調査を実施した。</p> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各スポーツクラブ21の活動状況に応じた統合を促進し、円滑な運営や活動を支える必要がある。 	達成度		
<p>●取組5 「地域スポーツの振興と活性化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツの振興と活性化を図るため、平成23年度より3か年計画で加西市スポーツ推進計画を策定 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進計画策定委員会を設置し、策定会議を2回開催した。計画策定のたたき台となる素案を作成した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、少子高齢化によるスポーツをする人口の減少、スポーツ推進の担い手不足等が見込まれることから、計画策定においても、将来像にあったスポーツ推進体制づくりをする必要がある。 	担当課		
	文化スポーツ課		
	達成度		

実践目標	3	豊かな心を育む文化・芸術活動を推進し、文化の薫り高い環境の整備充実を図ります			
<p>●取組1 「文化芸術の催し開催などによる魅力ある文化発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> 第46回文化祭の開催 文芸祭・美術公募展・市民音楽祭・囲碁大会・いけばな展・茶席 家族ふれあい芸能祭・おやこ劇場 ひょうご民俗芸能祭INかさいの開催 播州歌舞伎・播州加西あばれ太鼓・播州地搦き唄・赤穂濱鋤き唄 誕生獅子・春日戦国太鼓・住吉神社龍王の舞・丹波もちつき踊り・綱引獅子舞 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 第46回文化祭 参加者人数:1,928名、入場者数:2,845名 ひょうご民俗芸能祭INかさい 参加者人数:230名、入場者数:600名 <p>市制45周年記念事業等もあり、充実した文化の発信を行うことができた。</p> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 7部門で構成される文化祭については、開催内容の適宜見直しが必要である。 各事業の魅力を知ってもらい集客するためのPR方法に工夫が必要である。 	担当課				
	文化スポーツ課				
	達成度				
<p>●取組2 「文化連盟所属団体をはじめとする市民・団体の自主的活動への支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> 東はりま芸能祭の開催 〔東播磨文化団体連合会に所属する芸能団体による邦楽、日本舞踊などの披露〕 文化連盟および同連盟加盟団体の自主的活動への支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化連盟(登録者数:約800名)を中心に、東はりま芸能祭(参加者人数:116名、入場者数:650名)、東播磨文化団体連合会主催事業(6事業)への参加に加え、文化連盟加盟団体自主事業を年間約40回開催にあたり支援を行い、自主活動を充実させることができた。 	担当課				
	文化スポーツ課				
	達成度				

<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体によっては、その構成員の活性化が必要などところがある。 ・団体構成員の更なる自主・自立に向けた指導を継続する必要がある。 	達成度		

実践目標	4	豊かな歴史文化遺産の保存と活用を市民協働で継続的に進めます		
<p>●取組1 「文化財保護活動の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財整備活用 ・未指定文化財の再評価 ・埋蔵文化財包蔵地の周知と開発計画との調整 ・文化財保存会等の活動支援 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県登録文化財の1件増(一乗寺開山堂)、指定文化財の説明看板・標柱設置4件実施(普光寺・吸谷廃寺・奥山寺・綱引)、未指定文化財の再評価4件実施(北条鉄道駅舎調査・戦争遺跡測量調査・野上町大日寺古文書調査・石棺調査)、埋蔵文化財と開発計画の調整事務を159件、立会調査を5件、確認調査を9件実施、文化財保存会等活動助成33団体、文化財修理助成1団体への補助金助成実施等を通じて継続的な歴史文化遺産の保存を充実させることができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物の老朽化や石造物の風化等の問題があり、指定文化財の保存と維持管理の充実を図ることが課題である。 ・看板設置や情報発信、観光ルート設定等、文化財の観光資源化への取組の拡充が必要である。 			担当課	
			文化スポーツ課	
			達成度	
<p>●取組2 「歴史文化遺産の活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、学校教育への文化財出前講座等の開催 ・玉丘史跡公園の効率的な管理と運営 ・埋蔵文化財整理室等の活用 ・文化財サポーター(ボランティア)活動の支援 ・「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財出前講座・見学会等の開催(小学校3件110名、団体4件77名が参加)、埋蔵文化財整理室特別展開催(年間来室者数401名(前年比10%減))、史跡公園(指定管理)の来園者数34,230名(前年比11%増)、イベント3回開催(延べ192名)、文化財サポーター活動10名、研修会2回開催、月1回の定例会実施、整理室特別展示企画参加、「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」実施、文化遺産継承事業5件、市村子供太鼓教室等延べ609名参加、文化遺産情報発信事業2件、鶉野飛行場跡ガイドブック・マップ作成、文化遺産普及啓発事業3件、芸能フェスティバル等延べ573名参加、文化遺産調査研究事業2件、野上町古文書調査延べ125名参加など多種多様で有効な文化財の活用ができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座等の一層の充実を図るため、学校教育との連携をより推進していく必要がある。 ・文化財サポーター(ボランティア)活動の活性化と継続が課題である。 			担当課	
			文化スポーツ課	
			達成度	

※ 達成度の表示については、横軸:難易度、縦軸:成果として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、成果は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、成果3

4			
3			
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ開設による公民館活動の情報発信、公民館登録グループによる出前講座のスタート、生涯学習パスポートの活用等、公民館を中心とした生涯学習推進が順調に進んでいる。 ・図書館を市民にとってより利用しやすく身近なものとするために、イベントの開催など積極的な取組を推進したことで来館者や利用者の増加につながっている。一方、子どもを対象にしたイベントが多く、より幅広い年齢層の利用促進を図るため、対象を広げた取組みを工夫する必要がある。 ・スポーツ団体と指導者の育成、スポーツ推進計画の策定は一定の成果をあげている。スポーツクラブ21の活動については、県の発展的統合制度を活用した活動の充実が期待される。 ・3か年計画の2年目を迎えたスポーツ推進計画の策定については、市民スポーツ意識調査を受け、策定委員会の立ち上げから素案の作成と順調に進んでいる。 ・市制45周年であったこともあり、例年の文化事業に加え、ひょうご民俗芸能祭、東播磨芸能祭等の県事業も市内各種文化団体等の協力のもと実施することができた。 ・文化財保護活動、歴史文化遺産の活用とともに多種多様な事業を着実に実施できている。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>公民館を拠点とした各種講座の参加率や図書館の入館者の伸びは大いに評価されると思いますが、内容を加味された評価を行うと一層活動の充実が図られると思います。</p> <p>また、文化財の整備については、長期的な展望にたった調査・整備計画が必要と思われます。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

重点目標	3	みんなで子どもの未来を応援します
------	---	------------------

実践目標	1	心豊かでたくましい青少年の健全育成を進めます			
<p>●取組1 「いじめや不登校、暴力行為等の未然防止、早期発見、早期対応の取組の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ発見チェックシート」を作成し、各学校及び家庭、地域に配布 ・学校・警察・総合教育センター連絡会を年間5回実施し、情報交換等を実施 ・管理職及び生徒指導担当者を対象とした生徒指導研修会の開催 ・いじめ問題に早期対応ができるように、新たに報告様式を定めるとともに、連絡体制の整備を実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題等の啓発により、問題行動の未然防止、早期発見への意識の高揚が図れた。 ・教職員の危機管理意識の高揚と事案に対する対応の周知が図れた。 ・学校・家庭・地域の連携につながった。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して啓発活動を行い、家庭や地域との連携協力を呼びかけることが大切である。 ・教職員の事例研修を継続し、迅速かつ的確な対応ができるようにすることが重要である。 			担当課	総合教育センター	
					達成度
					■
					□
					□
<p>●取組2 「健全育成関係機関、団体との連携強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成に関わる団体の連携強化を図り、巡回補導や育成事業の実施 ・「加西市ネット見守り隊」によるインターネット研修会等の実施 ・健全育成・非行防止キャンペーンの実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の情報交換と連携した青少年の健全育成活動の推進ができ、効率的で効果的な街頭補導や健全育成啓発活動につながった。 ・児童生徒及び保護者が、インターネット等に潜む危険性を認識する機会となった。 ・市民の健全育成意識の高揚につながった。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加西市ネット見守り隊」の監視行動については、監視にあたる者が専門的知識と日毎進歩するネット社会に対応できるように、継続して研修を行っていく必要がある。 ・各中学校区ごとに健全育成に関わる団体による連携活動を行ってもらっているが、年度ごとに役員が交替する団体も多く、その引継ぎについて検討する必要がある。 			担当課	総合教育センター	
					達成度
					■
					□
					□
<p>●取組3 「青少年育成活動の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、多様な体験を通じて、たくましい身体と豊かな心を育てることを目的に、ジュニアリーダー教室を年間10回開催 ・加西市子ども会育成連絡協議会による、将棋大会や球技大会、「雪」体験ツアーなどを企画し、地域における青少年活動を推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動にあたるスタッフの創意工夫により、充実した内容の活動を展開することができた。 ・1年間の活動を通して、子どもたち自身にコミュニケーション能力や耐性などの成長が見られた。 			担当課	総合教育センター	
					達成度
					■
					□
					□

<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年団体構成員や育成指導者の減少により、現行の事業の継続が困難な状況がある。 ・部活動等の影響もあり、中学生の参加が難しい状況がある。 	達成度	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>●取組4 「教育相談体制の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の教育相談に加え、臨床心理士による特別教育相談や夜間教育相談を実施 ・市内相談機関連絡会による情報交換及び事例研修の実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談内容によっては、相談者承諾の上で学校や関係機関と連携し、早期に対応したことによって、問題解決につながるケースが見られた。 ・市内相談機関連絡会により、関係機関との連携強化が図れた。 ・不登校などの悩みを抱える保護者の支援となり、子どもたちの再登校につながるケースもあった。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、インターネットに関する相談が増加する可能性が考えられることから、市民への啓発活動を継続する必要がある。 	担当課	
	総合教育センター	
	達成度	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

実践目標	2	安全・安心な教育環境を整えます	
<p>●取組1 「教育環境改善・安全対策工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境改善工事として、富合小学校下水対応工事の設計委託、下里小学校プール塗装工事、西在田小学校プール浄化装置改修工事、遊具改修工事、西在田小学校体育館母屋塗装工事を実施 ・耐震化工事については、宇仁小学校地震改築工事、日吉小学校・北条中学校体育館耐震補強工事の施工と、善防中学校・泉中学校校舎耐震化工事設計を実施 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールの塗装及び浄化装置の改修により、快適な水質が確保できた。遊具の改修により、児童が安心して遊べるようになった。 ・日吉小学校体育館と北条中学校体育館の耐震化工事が完成し、耐震化率が74%になった。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化率は、74%で兵庫県の平均を下回っている状態である。今後、工事を前倒しで施行し耐震化の完成年度を少しでも早くする必要がある。ただし、改築による耐震化が必要な施設が2校あるため、財源確保が課題である。そのため、前倒し予算を有効に利用し財源確保を行う。 <p>各校とも設備が老朽化しており、耐震補強工事と合わせて設備改修工事を施工できる施設については同時施工とする。交付金の対象項目を有効に利用し、市費の負担を軽減する。</p>	担当課		
	教育総務課		
	達成度		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<p>●取組2 「子どもの安全を確保する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校11校において、児童の学校生活の安全を確保するワッシュイスクール事業、小中学校の児童生徒の登下校における安全を確保する見守り隊活動を推進 <p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校において、ワッシュイスクール協力員を募集、組織し、児童の学校生活での安全を確保できた。校舎外敷地及び学校周辺の巡視を行い、充実した活動がなされている。 	担当課		

<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊として、地域見守り隊、保護者見守り隊等が組織され特に各町老人クラブの隊員が多く児童生徒が安心して登下校できた。同時に、あいさつを交わし、「つながり」を両者が共有できた。 ・活動におけるベストを購入し、ベストを着けた責任ある活動を推進できた。 ・ワッシュョイスクール事業10周年を機に、各校での活動の様子を「かさい教育ネット」で安全な学校生活を市民に広報した。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワッシュョイスクール協力員については、世代の交代期をむかえている校区が多く、引継・組織の強化に向けた取組が必要である。 ・中学校におけるワッシュョイスクール事業の展開を考察する。 	学校教育課
	達成度

※ 達成度の表示については、横軸:難易度、縦軸:成果として塗潰して表示する。
 難易度は高い順にA～Cの3段階、成果は高い順に4～1の4段階で評価する。
 右の例示は難易度B、成果3

4			
3		■	
2			
1			
	C	B	A

教育委員会自己評価	概ね達成
<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域において、いじめ問題等の啓発活動を行うことにより、問題行動の未然防止、早期発見への意識の高揚を図ることができた。また、夜間の教育相談窓口の設置など、教育相談体制の充実ができた。 ・健全育成関係機関・団体との連携強化による巡回補導や「加西市ネット見守り隊」の活動など、先進的な取組ができた。 ・ジュニアリーダー教室や子ども会育成連絡協議会の事業など、青少年育成活動の推進が図られているが、青少年団体構成員や育成指導者の育成が重要である。 ・教育環境改善と安全対策工事の耐震化事業は、計画通り進んでいるが、まだ耐震化率は県の中でも低い状態である。今後、前倒し予算を有効に利用し、耐震化を進めて行く必要がある。 ・児童生徒の学校生活ならびに登下校時の安全を確保するために、学校の立地条件等を最大限考慮したワッシュョイスクール事業(小学校)及び見守り隊活動(小中学校)が展開された。さらに、地域の協力のもと、登下校時の安全対策に取り組めたが、児童生徒自身の安全意識の定着を図る必要がある。 	

※ 自己評価については「達成」、「概ね達成」、「やや不十分」、「不十分」の4段階評価とする。

評価委員会の評価	概ね妥当
<p>次世代を担う青少年育成活動は街の発展に欠かせないものです。不登校やいじめにも街独自の取り組みを行うなど評価できます。校舎の耐震化についても計画の前倒しを行うなど十分評価できますが、子どもの生命に関わることで、一層の耐震化率の前倒しを期待します。</p>	

※ 評価委員会の評価については「妥当」、「概ね妥当」、「やや不適」、「不適」の4段階評価とする。

総合コメント

教育委員会の自己評価を、目標設定の難易度と達成度から表すという、いわゆるマトリックス評価方法も導入2年目を迎えました。同じ項目・内容でも計画の経年により難易度を変えることにより、一層教育委員会の自己評価の在り方が変わるものと期待します。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学 教授	日 渡 円
兵庫教育大学 教授	藤 本 孝 治